

京都府依存症等対策推進会議第2回アルコール健康障害部会

(委員からの主な意見)

意 見

- ・ 関係者がこれまで京都で30年、40年やってきたアルコール健康障害の施策が形として位置づけられた。
- ・ 第1期計画の取組により、発生予防、進行予防、再発予防という一連の流れが明確にできたことがよかった。

<発生予防>

- ・ 学校への啓発活動などでは、当事者や家族の体験談を提供する機会を設ければ、依存症の理解も広がる。
- ・ 令和4年度から依存症が高校の新学習指導要領で項目に入るとのことだが、乳幼児が親の知らない間に、スマホを触っているということも現実としては起こっている。母子保健や保育所・幼稚園の段階から依存症予防の取組を積み上げていく必要があるのではないか。
- ・ 発生予防が重要であり、大学生や高校を卒業される方へアルコール依存症の正しい知識を伝えていく必要がある。
- ・ コロナ禍で家にいる時間が長くなっており、対策が必要。
- ・ 現在、府の委託でモデル事業として同志社大学で学生啓発リーダーの養成を行っているが、関わる大学を広げていきたい。
- ・ 令和4年度から依存症が高校の新学習指導要領で項目に入るとのことだが、乳幼児が親の知らない間に、スマホを触っているということも現実としては起こっている。母子保健や保育所・幼稚園の段階から依存症予防の取組を積み上げていく必要があるのではないか。(再掲)
- ・ 学校関係のWebサイトやオンライン通信などを利用した普及啓発が可能であれば学生に伝えやすい。
- ・ 発生予防が重要であり、大学生や高校を卒業される方へアルコール依存症の正しい知識を伝えていく必要がある。(再掲)
- ・ 年代に応じた広報媒体(若者にはWeb、それ以外には紙媒体、府民だより等)や配布場所の選択。ターゲットの設定による広報先の重点化。
- ・ LINEなどが使えれば気軽な相談窓口や啓発が可能になるのではないか。
- ・ 昨年度作成・配布された相談機関マップはいいものができたが、部数が少なく、配布先も優先度などを踏まえた検討が必要。
- ・ 年代に関わらず多くの方が来られ、患者が来られるのが薬局、ドラッグストアであり、依存症対策を発信する有効な場所の一つ。

＜発生予防＞

- ・ ハンドルキーパー運動とともに、どのような状態であれば飲酒運転になるのかを理解してもらう取組が必要。
- ・ 社会復帰は孤立しないように社会の中でどれだけつながりがつくれるかどうか
- ・ ハンドルキーパー、代行運転の事業者の周知（京都府飲食業生活衛生同業組合）
- ・ 情報のアクセスを集約するための依存症ポータルサイトの構築（参考：神奈川県）
- ・ 京都の南部には、専門医療機関が三つできたが、それ以外の地域では、保健所も医療機関もコロナ対応でひっ迫していてアルコール依存症の問題を相談しにくい状態だと思う。相談を受ける窓口や専門医療機関を周知していく必要がある。
- ・ 平成29年度に内科や精神科など集まったネットワーク会議を開催したが、大きなものではなく、関係者が平場で来やすい集まりを数多く行った方が効果的。
- ・ 内科の診療の中で何らかの介入ができれば進行予防としては大きいですが、内科医は時間がない。コメディカルが中心となって進行予防のための情報提供ができればと思う。
- ・ 関西で始まった「SBIRTS（エスパーツ）」によるアルコール依存症の治療を進める手順の普及。
※最初のSはスクリーニング（Screening）、次にリスクの高い者には簡易介入（Brief Intervention）。依存症ということであれば、専門医療機関の紹介（Referral to Treatment）があつて、同時に、自助グループ、家族会等（Self-help group）へつなげていく。無理なくアルコール依存症の治療を進める手順。
- ・ 断酒会はこれまでのイメージから、つながりにくさ、ハードルの高さがあると思う。気軽な相談窓口も必要ではないか。

意見

<再発予防>

- ・ 昨年度作成・配布された相談機関マップはいいものができたが、部数が少なく、配布先も優先度などを踏まえた検討が必要。（再掲）
- ・ 地域の相談拠点や様々な社会復帰の機関に家族をつなげ、支えることが大切。
- ・ 医療機関や相談機関等への相談があれば、家族会や断酒会につなげていただければ協力させていただく。
- ・ 社会復帰は孤立しないように社会の中でどれだけつながりがつくれるかどうか（再掲）
- ・ 京都マックが中心で行ってきた女性に対する支援は、京都ならではの取組。新たな計画では、施策として打ち出して、ネットワークを広げていってはどうか。
- ・ 体験談を実際に聞く機会を設けてもらえるように京都府・京都市で助成金をどうにか工面いただき身近なところから啓発活動をしていきたい。
- ・ 体験談を実際に聞く機会を設けてもらえるように京都府・京都市で助成金をどうにか工面いただき身近なところから啓発活動をしていきたい。（再掲）
- ・ 民間団体は、どこも資金がなく、熱意だけでボランティア的にやっている。何か資金面での支援ができないか。

<その他>

- ・ アルコール飲料にかかるテレビコマーシャルの規制
- ・ ストロング系のチューハイの規制
- ・ 診療所の家族支援は、スタッフの時間と労力の負担は大きいですが、診療報酬の算定がなく、実費のすべてを家族からいただくことは難しい。
- ・ 内科でアルコール依存症の評価をして、しかるべき紹介をしても診療報酬がつかないので、内科病院では評価をやれば時間がかかるだけで無駄ということになってしまう。
- ・ 警察や消防のアルコール依存症患者への理解促進

第1回京都府依存症等対策推進会議・部会（合同会議）

（委員からの主な意見）

意見

<発生予防>

- ・ アルコールもギャンブル等にしても何か体系だって教える枠があれば子どもたちも理解しやすい。
- ・ 学校、中学校からアルコール、ギャンブル等依存症というものが自分の人生に関わってくるという話をしていただきたい。
- ・ 出向元の大学では、毎年、新入生に対するオリエンテーション期間にアルコールに関する啓発の時間を設けている。新歓コンパでは、未成年者にはアルコールを飲酒させないよう厳しく言っており、最近ではかなり浸透してきている。
- ・ 啓発資材は、困っている方に届くよう関係者の意見も聞いて、数量、配布先、内容、媒体などの工夫が必要。
- ・ 依存症となる背景には、発達障害など様々な生きづらさの問題を抱えておられる方がいる。依存症の問題の根にある背景の問題とのつながりについても言及が必要ではないか。
- ・ 専門機関での治療という面とあわせて地域の暮らしをどう支えるかの両面で依存症問題を検討できればと思う。

<進行予防>

- ・ リスクのある方をどこで引っかけて、どうつなぐのかということについての具体性が少し欠けている。道筋があってよい。
- ・ 相談業務に対する経済的裏付けがなく、他の業務を抱えた職員が空いた時間に対応するなど余裕がない。経済的な面での支援もお願いしたい。
- ・ 相談活動を行っているが、京都府からの委託という形で取り組めれば相談体制が安定して進めることができる。
- ・ 相談業務に対する経済的裏付けがなく、他の業務を抱えた職員が空いた時間に対応するなど余裕がない。経済的な面での支援もお願いしたい。
- ・ 相談活動を行っているが、京都府からの委託という形で取り組めれば相談体制が安定して進めることができる。